

平成9年9月(1997年) No. 381

## OMCから3本等上映作品決定 - 第1回大阪アマチュア映像祭 -

去る8月24日、大阪アマチュア映像連盟の幹事が阿倍野市民学習センターに集合し、朝9じより夕方4時半までかかって、各クラブより提出された22本の全作品を上映して内容を見た後、合議の上で次の18本が選ばれました。いずれ劣らぬ力作揃いです。

上映作品(上映順)(敬称略)

- ①「ひらのぶらり英会話散策」尼丁和江(平野映像塾) ②「野猿公園」那須典彦(フジビデオサークル) ③「どろんこあそび」安居利次(OMC) ④「ヴェネツィアのカルネヴァーレ」関剛(映像集団地下街) ⑤「桜に想う」西野譲治(フジビデオサークル) ⑥「今が青春・活々熟年」堀田昭男(映像集団地下街) ⑦「あつついなー」小林春江(映像集団地下街) ⑧「道」安居良枝(平野映像塾) ⑨「ニーハオ雲南」合原一夫(OMC) ⑩「大阪天神祭」共同作品(天六ビデオクラブ)

休憩と挨拶

- 後半 ⑪「我が町探訪・川口～大阪ドーム」藤原純三(大阪ビデオクラブ) ⑫「季節(とき)の彩り」有村博(大阪ビデオクラブ) ⑬「平野の印象」前田茂夫(OMC) ⑭「銭は天下の回りもん」世話役共同作品(フジビデオサークル) ⑮「十戒の山・シナイ山」上総修一郎(関西シネクラブ) ⑯「マンダラ」八洲宏仁(映像集団地下街) ⑰「富士・雪化粧」石原隆行(大阪ビデオクラブ) ⑱「住吉大社・御田植神事」共同作品(住吉ビデオクラブ)、以上。  
 これからプログラムの作成等10月26日へ向けて忙しくなります。

### 9月例会のお知らせ

9月例会は27日(第4土曜日)午後6時より、阿倍野市民学習センター(あべのベルタ3階)で開催します。9月も末になりますと大分涼しくなつて、外を出歩くのにも気持ちの良い季節です。是非例会に出席して作品をご披露ください。

## 8月例会のレポート

先月の例会日が折悪しく台風に見舞われて中止となり、今月は2ヵ月振りの例会で16名の方々が出席されました。新しく渡辺雄史さんが入会されました。よろしくお祈りします。司会は合原さん、書記有村さん、デッキ係は関さんをお願いして会を進行しました。

上映に先立ち、浜松撮影会作品コンテスト入賞者に会長よりトロフィーが手渡されました。

最優秀作品賞：前田茂夫、優秀作品賞：江村一郎、秀作賞：奥 宏、合原一夫の各氏、拍手。なお、前田さんの作品は11月30日に行われるOMC映像フェスティバルで上映します。

◆出席者：合原、有村、岡本、前田、関、上総、花岡、奥、森、今井、江村、中尾、勝、松本、増池、渡辺の皆さん（敬称略）

◆上映作品（今月の記録と講評担当：有村 博さん）

- 1) 朱い記憶 関 剛さん 5分45秒  
兵庫県北条の五百羅漢、京都の伏見稲荷、平安神宮の朱を作者得意の音節編集で取り入れ、それにエフェクトをかけて心象の世界に挑戦された力作です。こういう作品は見た人の感じ方でそれぞれ評価が分かれるのは仕方のない事だと思います。お好きな方はどんどん見習ってみては如何でしょう。
- 2) カナダの思い出 有村 博さん 17分48秒  
6月下旬から作者夫妻がカナダを旅行した時の思い出を総集編的にまとめたものです。行った順番に繋いだけでは、単なる記録に過ぎず、もっと起承転結を考えた編集をすべきだと司会者のアドバイスがありました。
- 3) 瀉江（リコウ）下り 今井 羨美さん 6分  
中国の桂林に旅された作者は、墨絵によく書かれている独特の山容の山々や、美しい川面を撮影され、短篇ながら楽しい作品に仕上げられました。
- 4) 象と人とのペラヘラ 上総 修一郎さん 13分20秒  
昨年10月18日のOMCと関西シネの合同映像祭上映作品の再上映です。スリランカでの象使いと象との交流が詳細に描かれ、最後は百頭を越す象の大作進がみもののペラヘラ祭が展開されます。恐らく初めて当地に行かれたでしょう作者がこんなに詳しく取材されるのは、何かコツでもあるのかお伺いしたい位でした。
- 5) 「ビレッジショウ」ローズガーデン(タイ) 花岡 汪さん 15分15秒  
タイのバンコクに近い場所で観光客を相手の民族踊りを中心にしたショウが開かれており、作者はそれを克明に記録されました。風変わりで大変面白かったのですが、作者が海外旅行をされて、そこはどんな国で、どんな事があって、どう感じたのかを表現するのが作品だと思います。沢山撮られたテープの中から再編集されて、今一度見せてください。
- 6) よさこい 江村 一郎さん 8分25秒  
高知で毎夏開催される「よさこい祭」も今では、その自由奔放な振り付けで全国的に知られる様になっています。作者独自のカットの切れで表現される

であろう作品を期待したのですが、残念ながらカットが長く、単に雰囲気描写に終わったようで残念です。前田さんのアドバイスのように、曲の2～3節を絵に関係なく入れて、短い絵を後からインサートする技法ですと、思い通りの作品になるように私も思いました。再挑戦よろしく・・・。

7) ニーハオ雲南 合原 一夫さん 14分50秒

中国雲南省の昆明から大理にかけて旅行された作者夫妻が、当地の少数民族の人たちと漢字をはさんで交流を計られる様子が楽しく描かれています。撮影で描かれきれていないエピソードなどは後からナレーションで補足しても無理だと思いますので、思い切ってカットされ、今少し短くされた方がもっとよくなるように思いました。

8) 足 安居 良枝さん 3分

この後の2本は作者がご欠席で作品だけの参加です。いつも特異な題材で発表される作者ですが、これも健康な足が羨ましいというのがテーマです。知らない人が見ても作者がどの人かというアップカットは一つ位にして、階段の上り下り等は足がテーマなんですから、ふらつく足元だけで表現するともっとよくなるのでは、と思いました。

9) どんこんこあそび 安居 利次さん 7分40秒

泉南市の奇抜な方の提供する田圃に近くの幼稚園児が入って遊ぶ様を取材され、素朴な遊びの重要性を説かれています。東京アマチュア映像祭、全国ビデオコンテストに入賞された楽しい作品でした。

以上で会員さんの作品上映を終り、2次会は喫茶店と居酒屋に別れて楽しみました。

新入会員 渡辺 雄史さん 546 大阪市東住吉区田辺4-17-1 TEL06-621-8572

## 夜間撮影夜話

合原 一夫

ビデオはフィルムと違って、暗いところに強いというのは事実。先日天六ビデオクラブで、天神祭を共同で撮影しようということになり、打合会で夜の船渡御の撮影を全員VX-1000を使い、太陽マークにしてマニュアル露出で撮ることを大方が主張したものである。ゲインが上がって画面がザラつくのを防ぐために「月マーク」を出して撮ったほうがよいと主張するも、誰も、太陽マークと月マークはどちらか一つを選ばないと、両方は同時に出ないというものが多く、そのときカメラが手元にあって試してみたらよかったのだが、皆、うろ覚えの連中ばかり。結局、太陽マークで撮ることだけが決められて本番に臨んだ。結果は、「月マーク」と「太陽マーク」はそれぞれ別のボタンで選定でき、両方を出して撮影可能であった。考えてみれば「月マーク」は写真フィルムでいうASA感度のようなものだし、「太陽マーク」はホワイトバランスの問題で、それぞれの目的が違うのである。結局「月マーク」と「太陽マーク」の両方を出して撮影した人のテープのみが採用されたのだった。「黒」の部分の画質の差は歴然であった。なお、関さんの話では0dBに合わせて撮るのがよい、とのこと。いろいろ勉強になった共同撮影であった。

# VNET

ビデオマガジン



OMCの会員たち

連盟の結成により上映会に参加でき、来は会員数の少ないクラブでは公開撮影の機会にめぐまれなかったが、に借りられるメリットは大きい。従

実際、毎年上映会を開催しているクラブでは会員1人当りの会場費負担は重く、公共施設をきわめて安価に借りられるメリットは大きい。従

大阪市内に事務局を置いたり例会場があるなど、活動拠点を市内にしているビデオクラブ8組織が、さらに協力関係を深めるため「大阪アマチュア映像連盟」を結成した。会長はOMC大阪ムービーサークル会長合原一夫氏。これを記念して、第1回「映像祭」を10月26日(日)1時より、大阪市立中央図書館ホール(長堀橋)で開催する。

## 大阪市の8クラブが連盟を結成

みんなでやればメリットが一杯ある

ることになり、新しい目標ができて制作意欲が刺激されたとの声も。

結成については、両国の江戸東京博物館で毎年おこなわれている東京アマチュア映像祭を参考に、川上東京映像会長からのアドバイスを得て西の「大阪アマチュア映像祭」を実現させる。

市の広報などに告知も掲載され、図書館という市民活動の拠点で催すことで従来のようにビデオ愛好家に限らず幅広い観客にアピールできると期待している。

参加クラブと会長名は次のとおり。

- ①大阪ムービーサークル・合原一夫
- ②大阪ビデオクラブ・有村博
- ③関西シネクラブ・羽田昭治
- ④映像集団地下街・八州宏仁
- ⑤住吉ビデオクラブ・森島日出男
- ⑥フジビデオサークル・柴辻英一
- ⑦天六ビデオクラブ・野村一郎
- ⑧平野映像塾・松村長二郎。(敬称略)

▼連絡先 合原一夫 ☎06-833-9227